

科目番号	52009	分類	助産診断技術学	履修者	高度実践助産コース	学年	1	
科目名	妊娠期診断・技術学 (Antepartum Care)					1		
						配当シスター 通年		
担当者	○関屋伸子、橋本美幸、産科婦人科 医師、平出美栄子、小嶋奈都子 加藤知子 他	区分	助産師免許取得プログラム	必修	単位	2	時間数	45
授業の概要および目標						学位授与の方針との関連		
【概要】 妊娠の生理を理解し、基本的な妊婦管理について学ぶ。また、妊婦とその家族を中心として、正常な妊娠経過をサポートするための技術を学ぶことを目的とする。 講義では、助産診断学および助産技術学の概要を理解し、正常経過における妊婦および胎児の身体的・心理社会的特徴を踏まえて、妊娠初期、中期、末期における妊婦の管理（妊婦健康診査など）と妊婦のセルフケア能力の向上や出産準備を目的とした小集団や個人を対象とした保健指導を理解する。また、模擬事例を用いて正常経過の妊婦およびハイリスク妊娠におけるアセスメントと助産診断（マタニティ診断等）、ケア計画の立案の助産過程展開の基礎的技術を修得する。						○	1.自律して自然分娩の支援ができる能力	
【目標】 1. 妊娠の成立と経過の理解を深め、正常な経過における基本的な妊婦管理を理解する。 2. 妊娠期の女性とその家族の心理・社会的な特徴を理解し、対象を中心とした支援に用いるための看護理論と、アセスメントおよび具体的なケア方法を理解する。 3. 胎児の成長発達と妊婦健康診査における観察（問診、計測診、胎児心拍数モニタリング、超音波検査など）の方法とアセスメントについて理解する。 4. 模擬事例を用いて正常経過およびハイリスク妊婦に対する助産過程の展開方法を修得する。 5. 妊婦に対する主な保健指導計画立案の方法を理解し、ロールプレイを通して小集団指導方法を理解する。						○	2.院内・院外助産システムを担うことができる能力	
						○	3.女性の生涯にわたる健康を支援できる能力	
						○	4.周産期の救急時に対応できる能力	
						○	5.他職種と連携・協働し、質の高い助産ケアを提供できる能力	
						○	6.研究・開発能力	
						○	7.倫理的意意思決定能力	
授 業 計 画								
回	内 容						担当教員	
第1回	ガイダンス、妊娠の生理、妊婦の心理・社会的特徴						関屋	
第2回	助産診断学および助産技術学の概要						橋本	
第3回	妊娠期のフィジカルアセスメント						関屋	
第4回	妊娠各期の保健指導（栄養指導、出産準備教育など）						平出	
第5回	妊婦健康診査に用いる基本的な助産技術（腹囲、子宮底長、NSTほか）						関屋、橋本、平出、 小嶋、加藤（知）	
第6回	妊婦の管理（妊婦健康診査におけるハイリスク因子のスクリーニングおよび管理）						医師	
第7回	妊娠期の助産診断 1（妊娠各期の助産診断のポイントと助産診断類型）						関屋	
第8回	妊娠期の助産診断 2（身体的診断：母体の診断）						関屋	
第9回	妊娠期の助産診断 3（身体的診断：胎児の診断）						関屋	
第10回	妊娠期の助産診断 4（心理的・社会的・発達の診断）						関屋	
第11回	妊娠生活適応のケア						関屋	
第12回	親になる準備のケア						関屋	
第13回	ハイリスク・異常妊娠のアセスメントとケア						関屋	
第14回	妊娠期の健康教育（保健指導技術概論、集団指導と個人指導、保健指導指導案作成）						関屋	
*第15-16回	妊娠期の助産過程展開演習 1（妊娠中期・末期の助産診断とケア計画）						関屋、加藤（知）	
*第17-18回	妊娠期の助産過程展開演習 2（ハイリスク妊婦の助産診断とケア計画）							
第19回	妊娠期の助産技術演習 1（オリエンテーション、模擬事例紹介）							
*第20-21回	妊娠期の助産技術演習 2（妊婦健康診査ロールプレイ）						関屋、橋本、平出、 小嶋、加藤（知）	
*第22-23回	妊娠期の助産技術演習 3（小集団指導ロールプレイ）						関屋、橋本、平出、 小嶋、加藤（知）	
まとめ	筆記試験 技術試験：妊婦健康診査に用いる基本的な助産技術						関屋	
*は2コマ続き							関屋、橋本、平出、 小嶋、加藤（知）	
事前・事後学習	事前学習：各回の必携図書で該当する部分を読んでくる。 事後学習：配布資料を復習する。また、場合によってはレポートを課す。 単位と時間数に応じた学習状況（学生便覧参照）を参考に組み組むこと。							
評価の方法	授業への参加及び学習状況(10%)、レポート課題(10%)、技術試験(10%)、筆記試験(70%)から総合的に評価する。 フィードバックは適宜行う。							
参考図書・資料等	◎助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期(第5版)。編集：我部山 キヨ子/武谷 雄二、医学書院 ◎新人看護師、助産師学生、看護師学生のためのマタニティサイクルの実践保健指導 妊娠期：鈴木由美、丸善ブ ネット、2013 ・第3版シンプル産科婦人科学1 婦人科編：武谷雄二他、MEDICAL VIEW ・第3版シンプル産科婦人科学2 産科編：武谷雄二他、MEDICAL VIEW ・産婦人科ガイドライン、産科編2014 日本産科婦人科学会編 ・目でみる妊娠と出産、馬場一憲、文光堂、2013 ・CTG モニタリングテキスト：馬場一憲、松田義雄、東京医学社、2013 ・実践マタニティ診断第4版：日本助産診断・実践研究会、医学書院 ・今日の助産 改訂第3版 マタニティサイクルの助産診断・実践過程、北川真理子/内山和美、生田克夫、南江堂 ◎は授業の必携図書ですので、購入していただきます。							
備 考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。							